

1 研究主題

「分かる」「できる」授業を目指して

～ICTの活用を通して～

2 研究主題設定理由

児童を取り巻く環境は日々変化している。テレビやインターネットから様々な情報が溢れている。情報過多が指摘される一方で、教室では、ICT環境をよりいっそう充実させることが急務となっている。村教委の教育目標の基本方針にも、「ICTを活用した分かる授業を充実するため、教育用コンテンツを整備すると共に、教員のICT活用指導力及び授業力の向上を図ること」と示されている。

本校では、各教室に大型テレビ・パソコンが配置されているが、その活用が十分ではない、実物投影機の整備も追いついていない、校内LANによる教材の共有化もできていないなど、ICT環境においては、いくつかの課題を抱えているため、これらの課題の解決が必要であった。

最近の全国的・国際的な調査からは、児童の学力についての様々な課題が明らかになっている。平成14年1月には、文部科学省から「学びのすすめ」が発表された。この中では、確かな学力を育成することの重要性が指摘されている。文部科学省は、確かな学力を「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力まで含めたもの」と定義している。この考え方は、新学習指導要領の基礎となっている。確かな学力を身に付けるために授業時数も増加された。学びの根幹となる基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶことに楽しみを見出すことができる児童を育成することは、学校教育に課せられた最重要課題である。

本校では、「ふるさとを愛し、未来を拓く新島っ子」の育成を教育目標として掲げ、目指す児童像として、「強くたくましい子」「思いやりの心をもつ子」「進んで学び考える子」の3つを掲げている。知育・徳育・体育をバランスよく育てることが、教育目標の具現化につながるものと考えている。

本校の児童は、興味ある課題に対しては、意欲的に粘り強く取り組むことができる。能力を飛躍的に伸ばす可能性をどの子も秘めている。しかしながら、学力調査の結果では、国語・算数共に全国平均を下回っている。また、意見が言える子、言えない子が固定化しているなど、言語活動の力に格差があることも事実である。これらの学力の課題を解決するためには、教師が分かりやすい授業に努める必要がある。

以上のことから、研究主題を『「分かる」「できる」授業を目指して～ICTの活用を通して～』と設定した。

3 研究方法

(1) ICTを効果的に活用する手立てを集める。

①授業仮説を明確にした研究授業を年6回実施する。

- ・研究分科会内で協力して研究を進める。
- ・研究推進委員を含めて2回の指導案検討を行う。2回目の指導案検討の際には、教室で授業者が指導案に沿って模擬授業を行い検討する。授業の主張や組み立てだけでなく、発問や指示の中身から、児童の反応への対応にいたるまで、具体的に検討し、授業のイメージがつかめるようにする。
- ・授業を観察する際には、授業観察シートを用いる。授業者が示した授業仮説にそって授業を観察し、後の協議会で生かせるようにする。
- ・研究協議会では、授業仮説が有効であったかどうか視点をしぼって協議を深める。3つ程度の小グループに分け、KJ法で意見を整理し、授業仮説の有効性についてまとめる。授業の事実を基に話し合い、課題となる点については具体的な代案を示すようにする。

②ICT活用場面を中心にした実技研修を年3回実施する。

- ・提案者が実際にICT機器を動かしながら活用のねらいと方法を説明する。
- ・質疑応答の時間を設け、互いの理解を深めていく。

③ICT活用の実践事例を1人2点以上まとめる。

- ・研究推進委員会でレイアウトを示す。見てすぐに使えるように、使用場面と使用効果を具体的に示し、利用しやすい実践事例集にまとめていく。

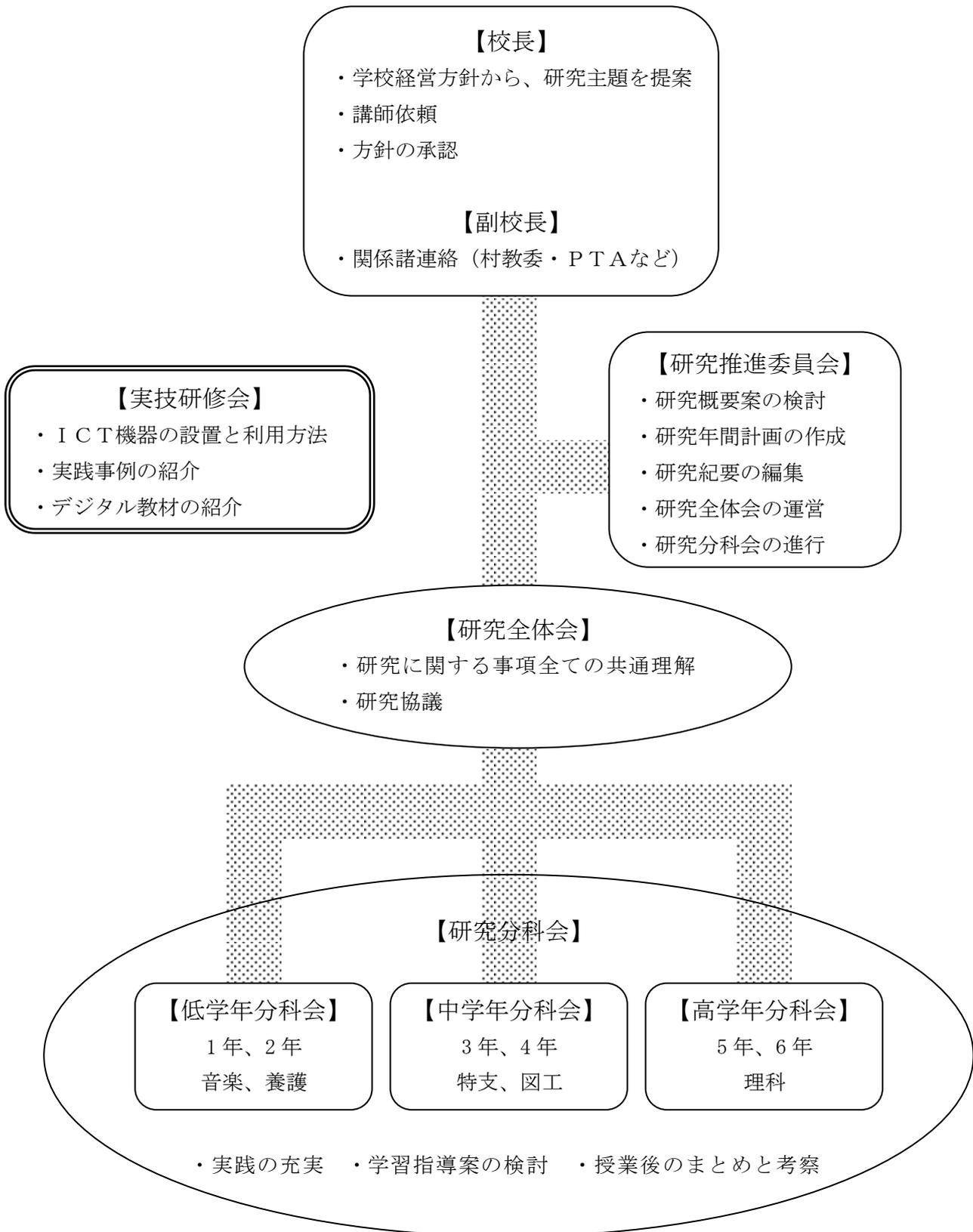
(2) ICT活用に関する調査と分析を行う。

- ・5月と2月に調査を行い、その変容を分析する。
- ・児童と教師に対して調査する。
- ・研究の振り返りに生かす。

(3) ICT環境を整える。

- ・全教室に実物投影機を設置する。日常的な使用に努める。
- ・デジタル教材の整理と共有化を図る。

4 研究組織



5 研究構想図

